

PRESS RELEASE

ふたたびの出会い

IZU PHOTO MUSEUM コレクション展

Re-encounters: The Izu Photo Museum Collection

荒木経惟
木村友紀
杉本博司
野口里佳
古屋誠一
松江泰治



2013年4月21日(日)–9月29日(日)

展覧会名 ふたたびの出会い—IZU PHOTO MUSEUM コレクション展
Re-encounters: The Izu Photo Museum Collection

会 期 2013年4月21日(日) - 9月29日(日)

IZU PHOTO MUSEUMは2009年に開館し丸3年が経たちました。これを契機とし、これまでに開催した展覧会の出品作品を中心にコレクション展を開催致します。

過ぎ去った出来事を再び目にすることができるのは、写真が可能にしたことのひとつです。この特質は自明すぎるがゆえにあまり意識することがありませんが、さまざまな作家や作品の中で重要な役割を果たしています。杉本博司は写真の発明者のひとり、ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットの紙のネガを自らの解釈でプリントし直すことにより、過去のイメージに新たな光を当てています。古屋誠一は東ベルリンで自ら命を絶った妻のポートレイトを20年以上にもわたり何度も編み直し、過去と向き合い続けてきました。また、写真が発明された19世紀半ば以降、愛する人を偲ぶためにアクセサリや毛髪と組み合わせられた肖像写真が数多く制作され、家庭の中で大切に保管されてきました。

本展では、100年以上前の無名の写真家や職人が制作した品々から、荒木経惟、松江泰治、木村友紀、野口里佳など現代作家の作品まで、さまざまな次元での写真をめぐる「ふたたびの出会い」をテーマにご覧頂きます。

[作品介绍]



杉本博司《光子的素描 015 タルボット家の住み込み家庭教師、アメリカ・ペティ女史と考えられる人物、1840-1841年頃》2008年、調色銀塩写真、937×749 mm

写真の発明者のひとり、ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットが19世紀に制作した紙ネガを自らの解釈でプリントし直すことにより、過去のイメージに新たな光を当てる。わたしたちは杉本の手を経由したタルボットの写真に再び出会う。



制作者不明（アメリカ）《ペーパーウェイトに収められた少女の肖像》1910年頃、ゼラチン・シルバー・プリント、100×60×16 mm

家族の肖像が収められた19世紀の銀板写真や、愛する者の写真があしらわれたアクセサリなど、遠くに行ってしまった者たちに、机の上や手の中で、再び出会うために制作された品々を展示。

2010年、写真史家のジェフリー・バッチェンをゲストキュレーターに迎えて開催した展覧会「時の宙づり—生と死のあわいで」で展示された作品。本展は家族アルバムの写真から遺影まで、これまで美術史や写真史の文脈では語られてこなかった写真群を俎上に載せた。



古屋誠一《Izu 1978》2006年、発色現像方式印画、1470×1240 mm

オーストリア人の妻クリスティーネと古屋の7年半の結婚生活は、妻の投身自殺によって終止符が打たれた。その後、20年以上の長きにわたり古屋は妻の姿を繰り返し展示し、何度も写真集に編み直してきた。その行為は写真を介して妻に会い、妻と過ごした日々を整理し、過去の自分と再び出会う旅路といえる。

本展では東京、シドニー、アムステルダムで展示された99点からなる作品《Trace Elements, 2008》も展示。



展示写真：市川靖

木村友紀《7 24 & 138-11》2010年、発色現像方式印画、アルポリック、フレーム、2点組、600×800 mm, 600×830 mm

のみ
蚤の市で手に入れた写真や祖父のアルバムに見つけた写真などと、自身で撮影した写真を使用する作家。飛行機が写るこの2枚の写真も、かつてそれぞれの目的で制作されたものが、別々の経路で作家の手もとにたどり着き、再び見出されたもの。



ウィリアム・ハイネ《小田原湾》（『ペリー艦隊日本遠征記』より）1856年、石版画、152×224 mm

富士山は日本の象徴としてペリー艦隊から仰ぎ見られ、その92年後、戦艦ミズーリから再び撮影された。富士山の表象から近代日本史を辿り直し、霊峰富士の脱神話を試みた展覧会「富士幻景—富士にみる日本人の肖像」で展示された作品。



野口里佳《手と虹》2010年、発色現像方式印画、460×690 mm

2011年に開催された展覧会のタイトル「光は未来に届く」には、写真とは、かつてあった光を、その写真を見る未来の人に届けるもの、という意味が込められており、本作も野口による写真論的作品とみることができる。



荒木経惟《東京日和》1993年／2012年、ゼラチン・シルバー・プリント、279×355 mm

1971年、妻との新婚旅行を撮影した『センチメンタルな旅』でデビューした荒木は、一貫して赤裸々な私生活をカメラに収め、私小説風の写真を発表してきた。妻陽子と愛猫チロは荒木の写真に頻繁に登場し、遺影となった妻も再び荒木のモデルとなっている。



松江泰治 《ALPS 18444》2012年、発色現像方式印画、700×876 mm

世界各地の地表を高所から撮影する松江の作品は、画面の隅々にまで焦点が合っており、細部までを克明に写し出している。1996年に撮影したアルプスの山肌を再び同じ構図で撮影した本作では、別々の時間に撮影された4枚の写真と、同じ構図の動画が合わせて展示される。

[関連イベント]

◎講演会

野口里佳(写真家)

4月29日(月・祝)午後2:30-4:00

定員150名、無料、申込先着順(お電話にてお申し込みください。055-989-8780)

会場：クレマチスの丘ホール(IZU PHOTO MUSEUM 隣接特別会場)

◎映画上映会

「杉本博司 はじまりの記憶」(監督：中村祐子、制作：テレビマンユニオン/WOWWOW、2011年、日本、83分)

5月26日(日)午前11:15-12:40 / 午後2:15-3:40の2回上映

定員150名、無料、先着順(申込不要、当日有効の観覧券が必要です。)

会場：クレマチスの丘ホール(IZU PHOTO MUSEUM 隣接特別会場)

◎対談

「写真家・古屋誠一をめぐって」小林紀晴(写真家)×小原真史(当館研究員、映像作家)

6月23日(日)午後2:30-4:00

定員150名、無料、申込先着順(お電話にてお申し込みください。055-989-8780)

会場：クレマチスの丘ホール(IZU PHOTO MUSEUM 隣接特別会場)

◎学芸員によるギャラリートーク

毎週土曜日、午後2:15-(約30分間)

無料(申込不要、当日有効の観覧券が必要です。展示室入口にお集まりください。)

[基本情報]

開館時間 10:00-18:00 ※入館は閉館の30分前まで

休館日 水曜日(8/14は開館)

入館料 一般800(700)円、高・大学生400(300)円
中学生以下無料※()内は20名以上の団体料金

住所 〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘347-1

電話 055-989-8780

ファクス 055-989-8783

ホームページ <http://www.izuphoto-museum.jp>

アクセス

車：〈東京方面〉東名裾野I.C.→R246 経由、沼津方面へ10km

〈名古屋方面〉新東名長泉沼津I.C. または東名沼津I.C.→伊豆縦貫道(無料区間)へ、長泉I.C. 出口右折、R246 経由7km

電車：JR 東海道線「三島駅」下車

北口3番乗り場発、無料シャトルバスあり(所要時間25分)

無料シャトルバス[三島駅 ⇄ クレマチスの丘]時刻表

○行き[三島駅]北口(3番乗り場)発								
時	9	10	11	12	13	14	15	17
平日	40	40	40	—	00	00	00	00
土日祝	40	40	40	—	40	40	40	—
○帰り[クレマチスガーデン]発								
時	9	10	11	12	13	14	15	17
平日	—	15	15	15	35	35	35	20*
土日祝	—	15	15	—	15	15	15	20

*は御殿場線「裾野駅」経由のため所要時間は約45分です。

◎クレマチスの丘で開催中の展覧会

ヴァンジ彫刻庭園美術館収蔵作品展「この星のうえで」(-5月26日)

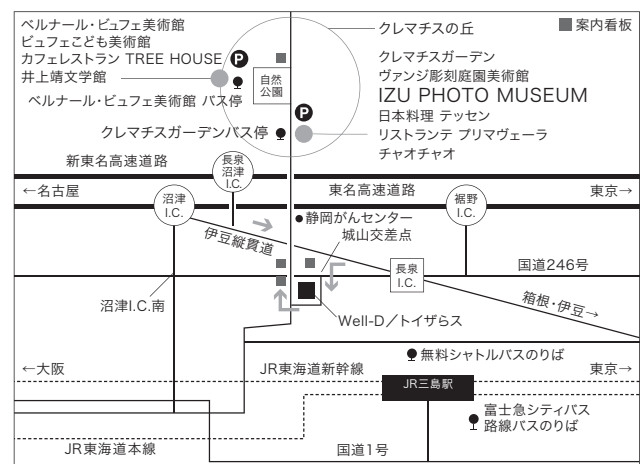
ジュリアーノ・ヴァンジ新作展「ヴァンジと女性像」(6月1日-)

ヴァンジ彫刻庭園美術館 Tel. 055-989-8787

「現代の眼で見るビュフェ」(4月22日-)

ベルナル・ビュフェ美術館 Tel. 055-986-1300

IZU PHOTO MUSEUM



[広報用画像]

本プレスリリース内でご紹介しました古屋誠一作品《Izu 1978》について画像（デジタルデータのみ）の貸出をしております。ご希望の場合はEメール、または必要事項をご記入の上FAXにてお申し込みください。



古屋誠一《Izu 1978》©Seiichi Furuya

広報用画像を希望する

■ 貴媒体名 _____

■ 掲載号 _____ ■ 発売日／放映日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

■ 貴社名 _____ ■ ご担当者様 _____

■ TEL _____ ■ FAX _____

■ E-MAIL _____ @ _____

■ ご住所 _____

■ 資料お届け期限 _____ 年 _____ 月 _____ 日までにご希望

IZU PHOTO MUSEUM 展覧会担当：永原

E-mail: nagahara@clematis-no-oka.co.jp

FAX: 055-989-8783

〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 347-1 TEL. 055-989-8780